

図書案内

2024年 7・8月号

夏休みに読みたい本

いよいよ夏休みが始まります。みなさんは、今年の夏はどのように過ごす予定ですか？勉強や部活はもちろんですが、海に行ったり、花火をするなど楽しい予定を立てている人も多くいるのではないのでしょうか。

今回は「夏休みに読みたい本」というテーマです。サスペンスやミステリー、不朽の名作や現代社会の闇についてなど、様々なジャンルの本を選んでみました。ぜひ読んでみてください。

『陽気なギャングが世界を回す』／伊坂幸太郎



日本推理作家協会賞受賞や、直木賞候補にも連続でノミネートされたこともある作者によるハイテンポな都会派サスペンス。嘘を見抜く名人、天才スリ、演説の達人、正確な体内時計を持つ女で構成された四人組の銀行強盗犯が思わぬ誤算で逃走中にお金を輸送襲撃犯に横取りされてしまい、奪還に動こうとするも、不穏な影がせまり…四人それぞれの視点で物語が切り替わって進んでいき、最終的に一つにつながっていくところがとても面白い一冊になっています。

「というわけで銀行強盗は4人いる。」



『満願』／米沢穂信

早川書房、宝島社、文芸春秋の国内部門でそれぞれ1位の三冠を記録。さらに第27回山本周五郎賞を受賞。米沢穂信のミステリー短編集。6篇の短編集かつ、文章に無駄もないので誰でも読みやすい一冊です。人間の生々しい欲望と闇が巧みに描かれており、文章から伝わる緊張感に引き込まれます。ラストの衝撃は声を上げるほど。ホラーチックな話も収録されており、夏休みにぴったりだと思います。どの話にもはずれがなく、コスパよく余韻を味わえます。これぞミステリー。

「こんなはずじゃなかった。上手くいったのに。上手くいったのに…」/夜警



『老人と海』／ヘミングウェイ

年老いた漁師のサンチャゴは、長い間不漁に苦しんでいた。不漁が続いた後の85日目、老人の竿に船よりも大きなカジキマグロがかかる。海の上で一人カジキマグロと格闘する老人にどんな結末が待っているのか… 獲物であるカジキマグロと老人の奇妙な関係と、細かい描写に引き込まれる名作。

「おい。俺はお前が大好きだ、どうしてなかなか見上げたもんだ。だが、おれはかならずお前を殺してやるぞ、きょうという日が終わるまでにはな」

『カスハラ モンスター化する「お客様」たち』 ／NHK「クローズアップ現代+」



みなさん「カスハラ」という言葉を知っていますか？顧客が企業やその従業員に対して行う不当な要求や迷惑行為のことをいいます。この本では顧客に過剰に罵倒された従業員の声、クレーム対策に乗り出した企業の事例などを紹介していて、読んでいてとても面白いのでぜひ夏休みに読んでみてください。

「無関係な第三者に八つ当たりをして、鬱憤を晴らす」

不快指数

日本の夏は蒸し暑く、不快な気分になりがちですよね。そんな不快さを数値で表した不快指数というものがあります。不快指数は(乾球温度+湿球温度)×0.72+40.6 または、0.81×気温+0.01×湿度×(0.99×気温-14.3)+46.3 という式で求めることができ、数字が大きいほど蒸し暑く、不快であるといえるそうです。この数値が80を超えると、ほとんどの人が不快に感じる暑さになるということです。ほかにも、服装指数や、紫外線指数、洗濯指数など様々な指数が日本気象協会より出されているので、それをみて一日の計画を立ててみるのもよいかもしれません。

(参考 URL : <https://tenki.jp/indexes/discomfort/>)